

シリーズ
再検証

②

札幌地下鉄開業50年

その功績と課題

ドウモナラングシ

過去に本誌が報じた、話題の人物やニュースを振り返るシリーズの第2弾は、1971（昭和46）年12月16日に開業した札幌市営地下鉄を取り上げたい。翌年2月に開幕した札幌冬季五輪に合わせ建設された路線であり、その後、札幌の近代化に大きく寄与した功績は周知の通りだが、巨額の資金が投じられたうえ、開業直後はシテムトラブルが相次ぐなど、批判的な声が少なからずあったことも事実だ。1972（昭和47）年4月号では、「ポスト五輪 正直な無人改札機」の意地悪採点」と題し、厳しい意見を並べている。今冬の記録的豪雪で、雪国における地下鉄の優位性が改めて証明されたが、開業50年を迎えた地下鉄は直面する課題も少なくない。

（フリーライター・内海達志）

「意地悪採点」の

て登場したはずが..

地下鉄開通、約三カ月。そろそろレールに乗ってもよさそうなのだが、ドッコイ、笛吹けど走らず。つい先頃も定期券や切符の裏に付いている磁気膜が、正常な働きをせず、交通局ご自慢の無人改札機に赤ランプがつきつ放し、という惨たんたる有様。各所に貼ったポスターには、「定期券をラジオ・テレビの磁場の付近に置かないで下さい」と呼びかける始末。

それはばかりではない。地下鉄試運転当時の初歩的事故から始まり、ゴムタイヤの悪臭公害、非衛生、さらにラッシュ・アワ

には無人機ならぬ職員総出切符きり。北二十四条駅には蛇の列。無人改札機百四十台、乗越し精算機二十一、券売機六十八台、両替機二、駅一台の監視装置十四台。金額五億五千万が泣こうと、ものだ。トテモ、トテモ人件節約のウタイ文句などおおよそつかぬ。まったくドウモナニ現状だ。

戸など、六大都市はメジロ押し
の地下鉄申請中。六大都市以外
の都市が地下鉄を設けて悪い理
由はドコにもない。だが、これ
までの経過を思えば、「オリンピ
ック・電車」といわれても返す
言葉もないようだ。

そして、この地下鉄を開発し
たのは札幌市と丸紅鉄道の共同
開発グループ。「東京・大阪と

違ひまして、車に多くの設
資はできません。それと騒
害防止ということで、コス
のゴムタイヤ式地下鉄がで
訳です」（市民通局高速電
木戸総務課長）

この丸紅鉄田が地下鉄開
より得た利潤とは、丸紅グ
プの川崎車両が製作した電
五十六両と、平岸から真駒
で、四・六の高架線のう
教習線一・二の受注分。
保安装置とうを含め、ザッ
十億の取扱高という勘定。
に強いか、ゴムタイヤと
いままでない製作工程の
です。よそでは仲々作って
ませんし、改札機などは、
や立石電気の入札もありま
が、結局、日本信号に決ま

五輪市政

そんな現状をふまえ、さ
月十六日、新年度予算市議



「も無人改札機は多くの人をさばくのだが」

期待されて登場したはずが..

東京、大阪、名古屋に次ぐ4
番目の地下鉄として、北24条―
真駒内間（約12キ）で華々しく
開業した札幌市営地下鉄。世界

を見渡しても、ニューヨーク、
パリ、ロンドンなど、地下鉄を
擁する都市は32しかなかったの
だから、オリンピック効果は絶

大だったといえよう。

当時の本誌は「反五輪」「反
地下鉄」のスタンスだったため、
開業時の話題は完全にスルーし
ている。開業から3カ月、よう
やく地下鉄の話題を扱ったのだ
が、その評価は実に厳しい。ま
ずはトラブルの実例をみていこ
う。

ぬ）

こうした改札機や券売機関連
のトラブルは、本誌の視点が殊
更に意地悪だったわけではなく、
「朝日」「文春」などの週刊誌も
同様に皮肉な描写で混乱ぶりを
伝えている。

また、本誌は採算面への疑問
を呈し、「五輪のためなら何で
もあり」の方針を改めて批判し
た。

（市当局のソロバンでは、一日
二十万三千人の乗客があるとし、
南北線の初年度収入見込額が二
十四億円。ところがすでに準備
期に生じた赤字が十四億円もあ
る。しかも、二月現在、一日の
乗客数は十八万から十九万を
前後している（市交通局調べ）。
このペースでいくと、黒字にな
るのは十八年後の昭和六十四年。
この年度でもタタ七千三百万
円の黒字）（この状態で本当に
札幌に「地下鉄」が必要だった
のだろうか。オリンピックのた
めという「隠れミノ」がありは
しなかったのか）



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)